

# 第 1 事業報告書

## I 連合会の事業活動の概況に関する事項

### 1. 事業の概況

- (1) 令和 4 年度の北海道農業は、6 月の降雹・9 月の記録的な大雨・9 月の台風等により一部地域・作物によっては生育に大きな影響が出たものがありましたが、収穫作業は総じて順調に進み、天候の影響を大きく受けた作物を除いては平年作を確保することができました。
- (2) しかしながら、コロナ禍による需給緩和の状況が続き、生乳についてはさらなる生産抑制に取り組まざるをえない状況となりました。また、ロシアのウクライナ侵攻をはじめとする地政学リスクの高まり、円安の進行等による肥料・飼料等の生産資材の高騰・高止まりが生産者の経営を圧迫するとともに、国際的なサプライチェーンの混乱等、食料や資材の多くを海外に依存する我が国の食料安定供給リスクが顕在化し食料安全保障に係る大きな危機に直面しました。
- (3) 農業政策については、政府が「食料安全保障強化政策大綱」を策定するとともに、食料・農業・農村基本法の検証・見直しを進めており、JAグループ北海道では食料安全保障の強化に向けた「食料・農業・農村基本計画」「食料安全保障の強化に向けた提言」「総合的な T P P 等関連政策大綱」等に基づく政策の確立に向けて、生産現場の意見を反映した施策の構築と食料安全保障に係る予算の確保や物流機能の維持・向上に向けた運動を展開しました。
- (4) 本会は、これまで以上に環境・社会の変化が想定される中で、第14次中期計画策定にあたり中長期的な環境予測をした上で2030年のめざす姿を描きました。その実現に向けて、SDGs 方針の策定やJA・生産者との連携による地域課題の解決を通じた系統結集、需給緩和と生産資材高騰への各種対応等の具体的な取り組みを実施しました。
- (5) 令和 4 年度の事業につきましては、資材価格の高騰等により取扱高は過去最高となる 1 兆6,016 億円となりました。本会事業に結集いただきました会員各位のご理解に対し厚く御礼申し上げます。
- (6) 需給緩和により積み上がった在庫の解消や生産資材の安定・安価供給等による食料安全保障の強化、環境負荷軽減と農業所得向上の両立、生産コストの適正な価格反映、安定輸送の維持等、北海道農業を取り巻く課題は山積しており、環境変化に柔軟に対応しながら、引き続き持続可能な北海道農業の実現に向けた具体的な取り組みを実施し、期待に応え信頼されるホクレングループを目指してまいります。

## Vision2030 めざす姿

生産者・会員JAとともに持続可能な北海道農業の実現に貢献し、  
期待に応え信頼されるホクレングループをめざします。

### 第14次中期計画基本方針

#### 【基本方針】 Vision 2030めざす姿に向けた具体的取り組みの実践

めざす姿を実現するために、コロナ禍による環境変化への確に対応するとともに、具体的な取り組みを重点方策として行動計画に落とし込み、実践してまいります。

#### <重点方策>

1. 総合力の発揮による地域課題の解決
2. 消費者ニーズと産地の強みをつなぐバリューチェーンの構築
3. 持続可能な物流体制の構築
4. 新技術やスマート農業の推進等による生産力の向上
5. 労働力不足への対応と人材育成支援
6. みどりの食料システム戦略への対応やSDGsへの取り組みを通じた環境負荷軽減と農業所得向上の両立
7. 地域社会の維持に向けた取組強化

## ホクレンSDGs方針

みどりの食料システム戦略をふまえ、  
環境負荷軽減と農業所得向上  
の両立に向け取り組みます。

# — 重点方策への取組内容 —

## 1. 総合力の発揮による地域課題の解決



### (1) J A・生産者との対話を通じた地域課題の把握に取り組みました。

- ア. 地域の協議体への参画による、地域課題・ニーズの把握、取組成果の共有
- イ. 青年部との積極的な対話を通じた地域課題と将来ビジョンの共有
- ウ. 営農情報誌「アグリポート」の読者モニター（アグリポーター）専用W e b ページの構築
- エ. アグリポーターとの意見交換による地域ニーズの把握（計11回）

	令和3年度 実績	令和4年度 計画	令和4年度 実績
アグリポーターとの ネットワーク構築	未整備	仕組構築 試験運用	アグリポーター 専用W e b ページの構築

### (2) 販売・購買・営農支援の三位一体の事業運営による総合力発揮を通じた地域課題の解決に取り組みました。

- ア. 「資材高騰対策プロジェクト」の立ち上げと、各地域でJ A・関係機関と連携したコスト削減に繋がる取り組みの推進（全道43テーマ）
- イ. マーケットインと産地省力化を両立させる加工業務用野菜の生産振興と粗原集荷の拡大
- ウ. 国産原料の安定供給に向けた豆類等の作付面積の拡大による輪作体系の維持
- エ. 部門横断的な検討による各作物の需要に応じた生産・流通・販売体制の構築

## 2. 消費者ニーズと産地の強みをつなぐバリューチェーンの構築



### (1) ニーズの多様化に対応した生販一体となった農畜産物流通の構築に取り組みました。

#### ア. 道産農畜産物の高付加価値化と信頼性向上

- 簡便・時短調理が可能な「北海道米パエリア・中華おこわ」（ホクレンブランド）の新規発売（令和4年6月）
- 米油としては全国初となる機能性表示食品を取得した「北海道こめ油」のリニューアル発売（令和4年8月）
- 馬鈴しょにおける加工業務用やチップ系品種の安定供給

### (2) 他企業・関係機関との連携による価値創出に取り組みました。

- #### ア. 馬鈴しょの萌芽抑制や、農産物の貯蔵ロス低減につながる長期貯蔵技術の開発
- #### イ. 市場拡大が見込まれる冷凍食品分野における協力会社との連携強化

### (3) 輸出等の新規市場への販売拡大と新たな分野への挑戦に取り組みました。

#### ア. アジア諸国を中心とした米やL L牛乳等の販売拡大

- 輸出用玄米のアジア諸国に展開する日系外食チェーンを中心とした供給による販売拡大  
(令和3年度2,600 t → 令和4年度4,081 t)
- 精米のアジア市場（香港・中国等）を中心とした輸出拡大と、北米への輸出開始
- L L牛乳の主要輸出先である香港における新規顧客獲得や、量販店でのノベルティ配布等のプロモーションの実施
- フィリピンへのL L牛乳や脱脂粉乳の輸出開始

#### イ. 株式会社北海道畜産公社等との連携による道産食肉の輸出販路拡大

- 豚肉のシンガポール輸出認可取得および輸出開始
- 牛肉のシンガポールを中心とした現地でのプロモーションの実施と、EU（特にオランダ）への輸出の本格開始

ウ. 水稲における免疫制御に着目した機能性食品の開発に向けた協議

エ. 水稲の多収品種や良食味品種、園芸作物の加工・業務向け品種の開発

	令和3年度 実績	令和4年度 計画	令和4年度 実績
精米の輸出	602 t	1,200 t	1,257 t
牛肉の輸出	180 t	190 t	235 t
豚肉の輸出	167 t	175 t	182 t

### 3. 持続可能な物流体制の構築



(1) 荷役作業省力化や物流拠点の確保・集約化等による安定輸送力の確保に取り組みました。

ア. 物流業界における働き方改革や労働力不足への対応

- 道外中継拠点の稼働開始による家畜生体輸送の円滑化
- 一貫パレチゼーション輸送の普及・拡大

	令和3年度 実績	令和4年度 計画	令和4年度 実績
青果物の 一貫パレチゼーション輸送	218,000 t	270,000 t	218,700 t

イ. 安定流通に向けた季節波動の緩和

- 東京食品流通センターや他保管施設の収容力を活用した前送輸送（米穀・でん粉）

(2) 他企業との連携等による輸送力確保と物流コスト低減に取り組みました。

ア. 配合飼料安定供給を目的とした物流体制の整備の検討や、JRコンテナ片荷解消に向けた配合飼料輸送の実施

イ. 生乳の集荷・配送路線の見直しや乳業者新工場への配送等合理化の推進、補助事業を活用した輸送タンクの大型化によるコストの低減と需給調整機能の強化

ウ. 生産者直送大型規格農薬の取扱拡大（35品目・普及面積12,351ha）

(3) 将来にわたる安定的な物流体制の構築に取り組みました。

ア. 将来の輸送力不足への対応として、各品目の輸送実態把握と課題整理による対応策の検討

イ. 片荷解消に向けた、道内到着貨物の拡大による貨物鉄道輸送力の確保

ウ. 貨物鉄道輸送力の維持・存続に係る課題への継続対応

## 4. 新技術やスマート農業の推進等による生産力の向上



### (1) 省力化栽培技術の普及、作業の自動化等による労働生産性の向上に取り組みました。

- ア. R T Kシステムの安定稼働に向けたシステム構築ならびにドローンとの連動や、4衛星基地局の実証を通じた普及推進
- イ. 環境制御型ハウスや、セミナー等を通じた水管理システム「f a r m o」の普及（累計実績1,196台）
- ウ. ドローンを活用した農薬請負散布の拡充
- エ. 機械収穫等省力化に適する園芸品種の開発

	令和3年度 実績	令和4年度 計画	令和4年度 実績
R T Kシステムの安定稼働 と利用拡大	62JA 4,694ID 50基地局	63JA 4,800ID 52基地局	68JA 5,802ID 53基地局
ドローンによる農薬請負散 布の拡充	700 ha	3,000 ha	1,302 ha

### (2) 最先端のスマート農業のモデル実証および情報提供・普及推進に取り組みました。

- ア. 訓子府コネクテッドファームを拠点とした「作業の省力・自動化」や「データ農業」の活用に向けた実証ならびに各種媒体によるコネクテッドファーム構想のJ Aへの周知
- イ. ローカル5 Gを活用した家畜疾病の早期検知、個体識別、遠隔指導の実証

### (3) 農業生産の効率化に向けたデータ活用型農業の実現（農業DX）に取り組みました。

- ア. G I S（地理情報システム）の基盤整備と活用に向けた「ホクレンG I S」の実証を通じたシステムの安定運用および機能評価（令和4年度：2 J A実証参画）
- イ. 生乳トレーサビリティシステムの機能拡充として開発した生乳集荷データを取り込む新型ハンディターミナルを活用した乳質改善および生産性向上

## 5. 労働力不足への対応と人材育成支援



### (1) 関係機関と連携した労働力確保や省力化に向けた取り組みを強化しました。

- ア. J Aグループ北海道独自の農業求人サイトの運営による人材マッチング（実績92名）
- イ. パートナー企業と連携した産地間連携による人材確保（実績45名）や、外国人材とのマッチング（実績30名）
- ウ. 直播適性の高い水稲品種「えみまる」の普及・拡大による省力化の推進（「えみまる」の種子需要：令和4年産7,741袋→令和5年産11,219袋）
- エ. 農業施設の省人・省力化に向けた産学官連携による技術開発と実用化
- オ. 店内業務の省力化に向けた店舗外加工食品（畜産品）の取扱拡充

	令和3年度 実績	令和4年度 計画	令和4年度 実績
えみまる作付面積	1,830 ha (4年産)	2,250 ha (5年産)	2,250 ha (5年産)
販売数量	4,656 t (2年産)	5,100 t (3年産)	5,361 t (3年産)

### (2) 新規就農者や若手担い手、J A職員の技術力・知識向上に向けた支援に取り組みました。

- ア. 担い手や女性農業者、J A職員、コントラオペレーター等の農業関係者の技術力向上に向けた研修会の開催（計13回 約600人受講）
- イ. 訓子府実証農場を活用した酪農後継者等に対する長期研修等メニューの拡充
- ウ. 生産者へのリアルタイム遠隔栽培指導の実証



## 6. みどりの食料システム戦略への対応やSDGsへの取り組みを通じた環境負荷軽減と農業所得向上の両立



### (1) 研究機関や他企業との連携による新技術の研究・開発に取り組みました。

- ア. 乳牛のメタン産生の抑制に向けた大学との共同研究
- イ. 家畜ふん尿資源の有効活用方策の調査実施
- ウ. 温室効果ガス排出量削減に向けた新たな技術や資材の開発
  - バイオマスレジンの精米ポリ袋実用化

### (2) 環境負荷軽減に寄与する資材供給・生産技術の普及に取り組みました。

- ア. 精米や片栗粉等における化石燃料由来の原料を低減した「サステナブルパッケージ商品」の開発と販売拡大
  - 大部分の市販用精米商品や北海道こめ油のパッケージにおいて、バイオマスインキを一部使用した環境配慮型素材へ転換
  - 「えみまる」を「直播栽培・高密度播種」原料の使用を訴求した環境配慮商品としてリニューアル発売
- イ. リモートセンシングデータ等を活用した化学肥料・農薬の可変散布に向けた技術検証
  - 農薬可変散布による大豆殺虫剤散布量▲7.6%、てん菜殺菌剤散布量▲8.6%での同等効果の確認
- ウ. 環境負荷軽減につながる新肥料銘柄の開発・普及
  - 銘柄名：せひラク・えこラク、合計実績：16,584 t
- エ. 生分解性マルチの普及や肥効調節型肥料における脱プラスチックへの対応
  - プラスチック入り肥料流出防止チラシによる生産者向け啓発の実施
- オ. ブランド米を先行させた水田のメタン発生抑制技術の普及・推進

	令和3年度 実績	令和4年度 計画	令和4年度 実績
	栽培面積		
メタン発生抑制に寄与する 「稲わら搬出・秋鋤込」の 普及	(ゆめぴりか) に占める割合 51% (3年産)	70% (4年産)	69% (4年産)

## 7. 地域社会の維持に向けた取組強化



(1) 安心して暮らせる地域社会のための生活インフラ機能の維持・強化に取り組みました。

ア. Aコープチェーン・北海道の仕入と販促の統一に向けた体制整備と今後の店舗運営形態に関するJAの意向確認および実態調査の実施（29JA）

イ. ジョイライフネットショップでの冷凍食品全道取扱開始（令和4年9月）および作業衣料品やこだわり商品等の取扱アイテムの拡大

	令和3年度 実績	令和4年度 計画	令和4年度 実績
新たな生活店舗 運営形態の展開	原案提案	協議	JA意向確認 実態調査
ジョイライフネットショップ 利用者率	6%	12%	15%

(2) 脱炭素社会に対応した地域のエネルギー供給体制の構築に取り組みました。

ア. 総合的なエネルギー供給体制の構築

イ. 再生可能エネルギーの活用検討

	令和3年度 実績	令和4年度 計画	令和4年度 実績
電気取扱体制の構築 推進準備	エネルギー 動向調査	電気取扱 体制構築	電気取扱 体制準備

# — 事業方策への取組内容 —

## 1. 米穀事業（取扱高：131,981百万円）



### (1) 生産基盤確保に向けた取り組み

#### ア. 水張面積の維持に向けた直播・高密度播種などの省力化技術の拡大

- 直播・高密度播種の普及に向けた講習会の開催等による「えみまる」の需要増加（種子需要：令和4年産7,741袋→令和5年産11,219袋）

#### イ. 良食味生産に向けたリモートセンシング技術の開発・導入や省力化に向けた水管理システムの普及拡大

- 水管理システム「farmo」の農機燃料自動車部門と連携した販売推進（令和3年度519台→令和4年度634台）

#### ウ. 業務用需要に向けた多収品種の開発・普及

- 優良品種となることが決まった多収性の「空育195号」（「きらら397」対比で18%増収）の普及に向けた、種子増殖や栽培マニュアル整備等の検討（普及目標：令和5年産35ha→令和6年産3,000ha）

#### エ. コロナ禍での米穀需給緩和解消へ向けた、主食用米の販売拡大および他部門と連携した水田転作の体系構築

- 令和3年産主食用うるち米の増量キャンペーンを中心とした販売展開や、令和4年産の深掘り対策の実施
- 令和4年産の一部銘柄の販売調整と、段階的な価格改定（値上げ）の取り組み実施
- 水田活用米穀の生産目安や需給環境を踏まえた取り組みの実施（政府備蓄米・加工用米の拡大）

## オ. 米糠など副産物の有効活用に向けた研究・開発

- 北海道米の糠を原料とする「北海道こめ油」を、米油としては全国初となる機能性表示食品を取得し、北海道産と健康を訴求した商品としてリニューアル発売
- 原油抽出工程で発生する脱脂糠を飼料用途として販売開始（肥料用途での商品開発も検討中）



高密度播種苗の移植



水山自動給水装置 farmo



北海道こめ油

## (2) 米消費量減少および消費環境変化への対応

### ア. 産地精米の道外販売拡大

- アマゾンなどのオンラインショップや業務用向けの販売拡大

### イ. 消費環境変化に対応した新たなカテゴリー（健康・簡便・環境・鮮度・地域貢献）の商品開発

- 「えみまる」を環境配慮商品としてリニューアル発売（バイオマスインキ・バイオマスフィルムや直播・高密度播種原料の使用を訴求）
- 簡便・時短調理が可能な「北海道米パエリア・中華おこわ」を、北海道米を使用したミールキットとして新規発売

### ウ. アジア諸国を中心とした輸出の拡大（玄米・精米）

- 輸出用玄米のアジア諸国に展開する日系外食チェーンを中心とした供給（輸出用玄米：令和3年度2,600 t → 令和4年度4,081 t）
- 精米のアジア市場（香港・中国等）を中心とした輸出拡大と、北米への輸出開始

エ. 安定的な原料確保に向けた産地 J A との連携と複数年契約の活用

○主食用うるち米の複数年契約を主体とした事前契約による安定供給体制の構築

(令和 4 年産米事前契約：176千 t)

(全道共販出荷量に対する事前契約比率：64%)

オ. 免疫制御に関する機能性食品の開発に向けた研究

○「ゆきひかり」の免疫制御機能に着目した米機能性食品の開発に向けた取り組み



栽培方法を強調した精米商品「えみまる」



環境配慮型パッケージの導入



ホクレンブランドのパエリア・中華おこわ

(3) 環境負荷軽減へ向けた取り組み

ア. みどりの食料システム戦略を踏まえた特別栽培米や有機栽培等、化学肥料・農薬を低減した米穀の生産・需要拡大

○「みどりの北海道米チャレンジ」に出品した原料による需要拡大（「J A L ダイヤモンド・プレミアラウンジ」でおにぎりを提供）

イ. ブランド米を先行させた水田のメタン発生抑制技術の普及・推進

○「ゆめぴりか」の稲わら搬出・秋鋤込みの実施率

○温室効果ガス削減量 推定10千 t

排出量 令和3年産以前比▲12%

ウ. パールライス工場での再生可能エネルギー等の活用による温室効果ガスの削減

○太陽光発電や蓄電池などの活用に向けた協議・検討

エ. 全農推奨リサイクルフレコンへの段階的切替

○費用逡減に向けた全農推奨フレコンの活用準備

具体的行動計画	令和3年度 実績	令和4年度 計画	令和4年度 実績
えみまる作付面積	1,830 ha (4年産)	2,250 ha (5年産)	2,250 ha (5年産)
販売数量	4,656 t (2年産)	5,100 t (3年産)	5,361 t (3年産)
産地精米の道外への新規販売拡大	—	1,850 t	1,579 t
精米輸出の拡大	602 t	1,200 t	1,257 t
農薬低減栽培の生産拡大	18,000 ha (3年産)	18,450 ha (4年産)	16,306 ha (4年産)
メタン発生抑制に寄与する「稲わら搬出・ 秋鋤込み」の普及	栽培面積 (ゆめぴりか) に占める割合 51% (3年産)	70% (4年産)	69% (4年産)

## 2. 農産園芸事業（取扱高：312,046百万円）



### (1) 生産基盤維持に向けた取り組み

- ア. 適切な輪作体系の確立、需要動向を踏まえた計画生産のために、J Aグループ北海道による「畑作物作付指標」の設定
- イ. 安定栽培技術や病害虫対策に関するリーフレットの配布による全道の生産者に向けた情報発信・啓発の実施
- ウ. 省力化に寄与する「北のプラグ苗」の高品質安定生産

### (2) 生販一体となった北海道農産物の安定供給体制の構築

- ア. 消費地サイロにおけるストックポイント化の試験的な運用および道内港湾施設の機能強化に向けた関係各所との協議の実施
- イ. 実需者ニーズと生産者の収益安定化を両立する豆類の実需直結型販売の強化と契約栽培の推進
  - （契約栽培：令和3年度235千俵→令和4年度275千俵）
  - （実需直結型販売：令和3年度180千俵→令和4年度258千俵）
- ウ. 需要が大きく回復した小豆類の安定供給に向けて、作付増反に向けた生産者と実需者の交流会実施や新聞記事・広告の掲載、直近情勢を記載したパンフレット配布の実施
- エ. でん粉・豆類における物流効率化に向けた一貫パレチゼーション輸送試験等の実施
- オ. マーケットインと産地省力化を両立させる加工業務用野菜の生産振興と粗原集荷の拡大
- カ. 産地・メーカーとの連携強化による加工業務用馬鈴しょの安定的な生産と販路拡大
- キ. 需給調整機能発揮によるポテトチップス系品種を中心とした種馬鈴しょの安定供給



(3) 北海道産農産物の価値向上に向けた販売への取り組み

- ア. 北海道産麦コンソーシアム倉庫の本格稼働とともに北海道初の菓子用品種「北見95号（ブランドネーム検討中）」の普及推進を目的とした製菓・製パン専門誌への掲載および小麦粉のサンプリングの実施
- イ. 片栗粉のサステナブルパッケージの開発推進および顆粒商品の認知度向上に向けた取り組み
- ウ. プラントベースフード等の新たな需要を見据えた商品開発に向けた市場調査の実施
- エ. 市場拡大が見込まれる冷凍食品分野における協力会社との連携強化
- オ. 産地や特色を訴求した冷凍野菜の開発やプレミアムブランド確立による J A 事業への貢献
- カ. 世帯構造および消費形態の変化に応じたネット販売等多様化する流通チャネルに向けた冷凍野菜商品の拡充
- キ. 多様化する流通チャネルへの販路拡大に向け、環境配慮型包材を使用した商品の開発等による S D G s への取組強化



北海道産麦専用倉庫（石狩市）



産地や特色を訴求したプレミアム冷凍野菜

具体的行動計画	令和3年度実績	令和4年度計画	令和4年度実績
道産小豆の取扱数量拡大	433 千俵	460 千俵	471 千俵
需要に応じたでん粉専用馬鈴しょ作付面積の確保	13,560 ha	13,600 ha	13,840 ha
加工業務用野菜の取扱拡大	42,793 t	43,000 t	40,600 t

### 3. てん菜事業（取扱高：76,381百万円）



#### (1) 農家経営の安定と健全な生産基盤の維持・確保

- ア. J Aとの連携による地域に即した作付支援の実施
- イ. 畑作農業の維持発展に向けた政策提案の実施
- ウ. デジタル技術を活用した生産支援の実施

#### (2) てん菜の栽培に関する技術的課題解決

- ア. 省力化・生産性向上に向けた関連技術の開発・普及
- イ. 優良品種の開発に向けた海外種子会社との連携強化
- ウ. 化学肥料・農薬の低減に向けた栽培技術の研究

#### (3) 将来にわたり持続可能な工場運営体制

- ア. 物流情勢の変化に対応した効率的かつ安定的な原料輸送および原料受入の実施
- イ. 株式会社ホクレン協同サービスと連携した製糖関連技術の継承
- ウ. 製糖工場の老朽化更新に合わせた合理化設備導入の検討
- エ. てん菜用多項目成分分析設備の導入による省力化の推進

#### (4) 顧客の信頼向上と低コストな砂糖生産による市場競争力の維持、低炭素・循環型社会への取組継続

- ア. 設備の改善によるさらなるコスト低減
- イ. マネジメントシステムの効果的な運用を通じた食品安全・品質の向上
- ウ. 温室効果ガス排出抑制およびカーボンニュートラルに向けた研究
- エ. 継続した工場副産物の供給と発生抑制の研究

(5) 砂糖の需要喚起と安定販路の確保

- ア. 業界や関係機関と連携した啓発活動の実施による砂糖の需要喚起
- イ. 代理店および特約店との連携強化による安定販路の確保
- ウ. 安定的な物流体制と物流コスト低減

(6) 労働安全の徹底と健康増進に向けた職場環境整備

- ア. 労働安全衛生マネジメントシステムの効果的な運用を通じた安全衛生水準の向上
- イ. 業務効率向上による長時間労働の削減



てん菜用多項目成分分析設備の導入



新規開設した中間受入場（土幌町）

具体的行動計画	令和3年度実績	令和4年度計画	令和4年度実績
効率的な原料受入施設の導入・整備	女満別受入場の運用	土幌受入場の開設	土幌受入場の開設

## 4. 酪農畜産事業（取扱高：678,274百万円）



### (1) 生産基盤の維持・強化

- ア. 急激な生産コスト上昇等を踏まえた取引乳価の期中改定交渉の実施と全用途乳価引き上げの実現
- イ. 早期の需給改善に向けた全国協調の乳製品在庫削減対策の実施を前提とした本会独自の生乳販売対策（生産者負担）や、総額15億円規模の本会独自の生産抑制支援策の実施
- ウ. 生乳の集荷・配送路線の見直しや乳業者新工場への配送等合理化による、補助事業を活用した輸送タンクの大型化等、コストの低減と需給調整機能の強化
- エ. ムギ類との同伴栽培の現地指導やホクレンホームページでの事例集掲載による普及
- オ. 家畜市場の集荷販売体制の強化や販売家畜の資質向上による有利販売と地域内流通拠点としての安定性・信頼性の向上
- カ. 円滑な家畜市場運営と家畜生体輸送の実現に向けた道外中継拠点の活用（令和4年6月稼働開始）

### (2) 生産コスト低減と生産性の向上

- ア. 全農・ホクレンくみあい飼料と連携した配合飼料に対する価格高騰対策の継続実施
- イ. 他社との配合飼料相互受委託製造の継続実施
- ウ. 関係機関との連携による牧草1品種、飼料用トウモロコシ2品種の令和5年販売開始の決定
- エ. JAと連携した生産者巡回強化による生産性向上への寄与
- オ. 生産コスト低減や生産物の付加価値向上、生産現場の経済性向上を図る調査・研究の実施



北海道優良品種  
チモシー新品種「センブウ」

カ. 生乳トレーサビリティシステムの機能拡充として開発した生乳集荷データを取り込む新型ハンディターミナルを活用した乳質改善および生産性向上

### (3) 畜産物・牛乳乳製品の付加価値向上と販路拡大

ア. エーコープ近畿の産地指定牛について1店舗において亜鉛栄養機能表示の取り組み、消費者に対する乳雄牛肉の健康訴求の実施

イ. 本会食肉加工品に「にくのくに北海道」を表示したイメージアップやブランド販売の実施

ウ. 畜産公社との連携による豚肉のシンガポール輸出認可取得および輸出開始  
牛肉のシンガポールを中心とした現地でのプロモーションの実施

EUへの輸出を本格的に開始、特にオランダを中心とした販路の構築

エ. LL牛乳の主要輸出先である香港における新規顧客獲得や量販店でのノベルティ配布等のプロモーションの実施、フィリピン向けに新規輸出の開始

オ. バター・脱脂粉乳の在庫圧縮に向けた輸入調製品からの置換推進等による販売拡大や、脱脂粉乳の輸出の実施



「にくのくに北海道」を活用した販売促進



アジア諸国へ販売している「LL牛乳等」

(4) みどりの食料システム戦略に対応した環境負荷軽減への取り組み

ア. 家畜ふん尿資源の有効活用方策の調査実施

イ. 温室効果ガス排出量削減に向けた新たな技術や資材の試験開始

具体的行動計画	令和3年度 実績	令和4年度 計画	令和4年度 実績
牛肉の輸出拡大	180 t	190 t	235 t
豚肉の輸出拡大	167 t	175 t	182 t
飼料の共同配送	1 区間	2 区間	1 区間

## 5. 生産資材事業（取扱高：326,150百万円）



### (1) 生産コスト低減に向けた取り組み

- ア. 土壌診断に基づく土づくりと適正施肥推進の実施（J A職員向け講習会、各情報誌への広告掲載およびアグリポートW e bにて動画再生回数1,400回以上）
- イ. 246品目の大型規格農薬の展開と、ジェネリック農薬の普及拡大  
（合計1,530百万円のコスト低減効果）
- ウ. 系統推奨型式農業機械の拡充  
（令和3年度11機種→令和4年度10機種）
- エ. 一貫パレチゼーション輸送に向けた段ボール規格の普及促進  
（令和3年度14 J A→令和4年度15 J A）

### (2) 各種資材の安定供給に向けた取り組み

- ア. 予約取りまとめに基づく早期手配等による各種資材の安定供給と価格抑制
  - 肥料原料や輸入農業資材の仕入先多元化によるリスク分散（令和4年度新規2箇所）
- イ. 生産者直送大型規格農薬の取扱拡大（35品目・普及面積12,351ha）
- ウ. 本会3石油基地（苫小牧・釧路・留萌）を最大限活用した燃料の安価・安定供給

### (3) 生産者・地域のニーズに対応した課題解決

- ア. J A経営基盤強化に向けたW e b受発注システムの開発（2 J Aにて試験導入）
- イ. 地域に合わせた銘柄の選定による肥料・農薬の効果確認を通じた施肥防除合理化圃場試験の実施（施肥課題129箇所、防除課題123箇所）
- ウ. ドローンを活用した農薬請負散布の拡充
- エ. 環境制御型ハウスの導入（令和4年度644棟）やブロッコリー収穫機のレンタルの開始

オ. 農業施設の省人・省力化に向けた産学官連携による技術開発



ドローンによる農薬散布



ブロッコリー収穫機

(4) 環境負荷軽減に向けた取り組み

ア. リモートセンシングデータ等を活用した化学肥料・農薬の可変散布に向けた技術検証

○農薬可変散布による大豆殺虫剤散布量▲7.6%、てん菜殺菌剤散布量▲8.6%での同等効果の確認

イ. 化学肥料使用量削減による環境負荷軽減が期待される新肥料銘柄（せひラク・えこラク）の開発・普及

ウ. 生分解性マルチの普及や肥効調節型肥料における脱プラスチックへの対応

○プラスチック入り肥料流出防止チラシによる生産者向け啓発の実施

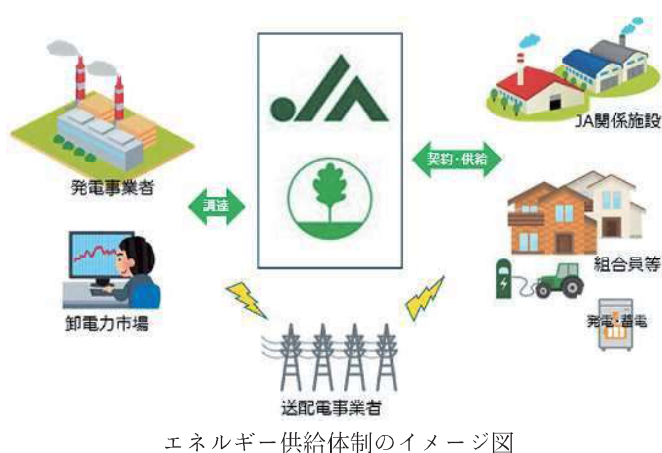
エ. バイオマスレジンを等環境に配慮した原料を使用した包装資材の実用化

○令和4年度精米ポリ袋実用化

オ. 総合的なエネルギー供給体制の構築に向けた電気の取扱準備開始



生分解性マルチ



エネルギー供給体制のイメージ図



具体的行動計画	令和3年度 実績	令和4年度 計画	令和4年度 実績
省力化および環境負荷軽減につながる新肥料銘柄の開発・普及	せひラク 10,900 t	せひラク＋ えこラク 13,500 t	せひラク＋ えこラク 16,584 t
ドローンを活用した農薬請負散布拡充	700 ha	3,000 ha	1,302 ha
生分解性マルチの普及	26,700本	29,000本	29,636本
系統推奨型式農業機械の拡充	11機種 (23型式)	10機種 (21型式)	10機種 (21型式)
総合的なエネルギー供給体制の構築	エネルギー 動向調査	電気取扱 体制構築	電気取扱 体制準備

## 6. 生活事業（取扱高：35,546百万円）



### (1) 「地域に住み続けられるまちづくり」の実現に向けた生活店舗の維持

- ア. Aコープチェーン・北海道の仕入と販促の統一に向けた体制整備と今後の店舗運営形態に関するJAの意向確認および実態調査の実施（29JA）
- イ. 店内業務の省力化に向けた店舗外加工食品（畜産品）の取扱拡充
- ウ. 畜産部門商品の一元荷受・生鮮便混載配送の開始（令和4年5月）
- エ. ジョイライフネットショップでの冷凍食品全道取扱開始（令和4年9月）

### (2) 北海道農畜産物の販売拠点としての機能発揮

- ア. 店舗やジョイライフネットショップにおける全道規模の牛乳消費拡大企画や地区単位での生乳・道産米消費拡大施策の実施
- イ. 道内野菜の供給拡大および道産原料を使用した地域加工品の取扱拡大

具体的行動計画	令和3年度実績	令和4年度計画	令和4年度実績
新たな生活店舗運営形態の展開	原案提案	協議	JA意向確認 実態調査
ジョイライフネットショップ利用者率	6%	12%	15%
地域加工品の取扱拡大	18百万円	80百万円	90百万円



ジョイライフネットショップ



牛乳の消費拡大販促企画

## 7. 物流（取扱高：41,236百万円）



### (1) 持続可能な物流体制の構築

- ア. 将来の輸送力不足への対応として、各品目の輸送実態把握と課題整理による対応策の検討
- イ. トラック運転手不足や高齢化への対応として、一貫パレチゼーション輸送の普及・拡大
- ウ. 東京食品流通センター等、道内外の保管施設を活用した安定収容力の確保
- エ. 中継拠点の設置・活用や、道内トラック長距離輸送から貨物鉄道輸送へのシフト等による長距離・長時間運行体制の改善
- オ. ほくれん丸の活用や船会社との連携による海上輸送力の強化



一貫パレチゼーション輸送



ほくれん丸に乗船したJRコンテナ

### (2) 物流の諸課題および危機管理への対応

- ア. 農産物輸送の平準化に向けて、道外保管施設を活用した米穀やでん粉の前送輸送の実施による季節波動の緩和
- イ. 災害発生時における、ほくれん丸を活用した海上輸送によるJRコンテナ代行輸送体制の維持・強化
- ウ. 片荷解消に向けた道内到着貨物の拡大による貨物鉄道輸送力の確保
- エ. 貨物鉄道輸送力の維持・存続に向けた関係機関との連携

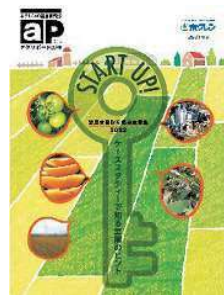
具体的行動計画	令和3年度 実績	令和4年度 計画	令和4年度 実績
青果物の一貫パレチゼーション輸送	218,000 t	270,000 t	218,700 t
ほくれん丸の乗船台数向上 (生乳除く)	30,300 台	30,400 台	30,327 台

## 8. 営農支援



### (1) 地域課題・ニーズの把握と課題解決に向けた取り組み支援

- ア. 地域の協議体への参画による、地域課題・ニーズの把握、取組成果の共有
  - イ. 営農情報誌「アグリポート」の読者モニターの増員（45名→83名）、Webを通じた意見交換等の実施によるニーズの把握
  - ウ. 実証成果集「START UP!」やアグリポートWeb等による成果の発信
  - エ. コスト削減や省力化技術を紹介する冊子「コスト削減・省力化のヒント」の発刊
  - オ. 「資材高騰対策プロジェクト」を立ち上げ、各地域でJA・関係機関と連携し、コスト削減に繋がる取り組みを推進（全道43テーマ）
- 現地実証が困難な課題や基礎研究が必要な試験等の本会農場での実証、研究



実証成果集  
「START UP!」 「コスト削減・省力化のヒント」



アグリポート別冊

### (2) 省力化・生産性向上に向けたスマート農業技術の開発・普及

- ア. RTKシステムの更なる安定稼働に向けたシステム構築ならびにドローンとの連動や4衛星基地局の実証を通じた普及推進
- イ. GIS（地理情報システム）の基盤整備と活用に向けた「ホクレンGIS」の実証を通じたシステムの安定運用および機能評価（令和4年度：2JA実証参画）
- ウ. 訓子府コネクテッドファームを拠点とした「作業の省力・自動化」や「データ農業」の活用に向けた実証ならびに各種媒体によるコネクテッドファーム構想のJAへの周知

エ. タイストール搾乳ロボットを活用した多回搾乳効果や、ローカル5Gを活用した疾病の早期検知等の生産性向上、省力化に繋がる酪農関連技術の実証



訓子府実証農場モデル農場化イメージ



タイストール搾乳ロボット

(3) 持続可能な農業の実現に向けた多様なニーズへの対応と環境負荷軽減の取り組み

ア. 実需者・生産者ニーズに合う、馬鈴しょ・小麦および水稲の品種開発、園芸作物の加工・業務用向けおよび良食味品種の開発

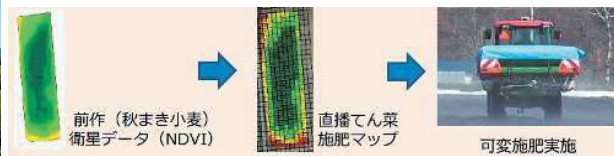
イ. かぼちゃ・さつまいもの貯蔵試験の実施、馬鈴しょの品質評価・加工適性試験の実施、衛星データを活用した水稲タンパク質予測モデルの検証

ウ. リモートセンシングデータ等を活用した可変施肥およびピンポイント防除による、化学肥料・農薬使用量の削減に向けた技術検証

エ. 温室効果ガス排出量削減に向けた新たな技術等の開発支援



小麦の育種圃場



直播てん菜の基肥可変施肥の取り組み



メロンの長期貯蔵実証

#### (4) 労働力不足への対応と人材育成支援

- ア. J Aグループ北海道独自の農業求人サイトの運営による人材マッチング
- イ. パートナー企業と連携した産地間連携による人材確保（実績45名・271人工）  
や、外国人材とのマッチング（実績30名）
- ウ. 担い手や女性農業者、J A職員等の技術力向上に向けた研修会の開催  
（計13回 約600人受講）
- エ. 訓子府実証農場を活用した酪農後継者等に対する長期研修等のメニューの拡充
- オ. 生産者へのリアルタイム遠隔栽培指導の実証

具体的行動計画	令和3年度 実績	令和4年度 計画	令和4年度 実績
アグリポーターとのネットワーク構築	未整備	仕組構築 試験運用	アグリポーター 専用Web ページ構築
R T Kの利用者拡大	62JA、50基地局 4,694 ID	63JA、52基地局 4,800 ID	68JA、53基地局 5,802 ID
G I S利用	実証期間	実証期間	実証期間
農業系求人サイトによる人材確保	試験運用 (令和4年3月～)	試験運用・検証	92名マッチング
スマート機器での栽培支援・研修	機器選定	機器選定・研修企画	試行的に研修会で導入

## 9. 経営管理



### (1) 本会の機能発揮に向けた新たな人材育成・人事制度の構築

- ア. Vision2030を実現するための人材戦略に基づいた人事施策の検討
- イ. テレワーク等の多様な働き方へ柔軟に対応できる人事制度の導入に向けた取り組み

### (2) 基幹システムの再構築とデジタル化による業務の効率化

- ア. システム障害回避およびJ Aを含めた業務効率化を目指した基幹システムの再構築への着手
- イ. 電子決裁システム導入等によるペーパーレス化や各種ITツールを活用したデジタル化による業務の効率化
- ウ. インボイス制度や電子帳簿保存法等への対応に伴うシステム改善

### (3) グループ経営の効率化およびガバナンスの強化

- ア. 従来の「業績評価」のほか、「内部統制の整備運用状況」および「コンプライアンス態勢」の視点を加えた新たな子会社評価を実施、課題解決によるグループガバナンスの強化
- イ. 子会社における重点リスクの選定や業務点検等を通じた業務の適正性向上への支援
- ウ. 法務相談等を通じたグループ会社の遵法体制への支援
- エ. 食品品質監査による管理実態の把握と業務改善の促進  
(対象：本会・子会社等の食品施設33箇所)
- オ. 本会職員およびグループ役職員を対象とした研修会の実施等による内部統制・コンプライアンス・食品品質管理・表示関係法令への意識向上



**(4) 広報活動による北海道農業・ホクレンへの理解醸成**

- ア. 生産者および道内外の消費者に向けた北海道農業・農畜産物の重要性や価値および本会の取り組み・役割を伝えるメディアを活用した広報の実施
- イ. メディアと連携して制作した番組による生産現場の魅力と、食を通じた豊かな暮らしに欠かせない北海道農業の存在意義を道内ならびに関東の大消費地にて発信
- ウ. 日常的な広報活動により、各種農畜産物に関する的確な情報の理解醸成と J A グループの透明性確保による持続可能な北海道農業に向けたファン拡大への取り組み

**(5) 本会施設等における環境負荷軽減への取組強化**

- ア. 省エネ設備への更新や再生可能エネルギー導入等による温室効果ガス排出量削減に向けた取り組み

## 2. 事業成績の推移

(単位：百万円)

項目 \ 年度	元年度	2年度	3年度	当年度
事業利益	4,407	4,885	2,210	4,877
経常利益	4,882	5,405	2,864	6,618
当期剰余金	4,360	4,563	4,661	5,993
総資産	359,879	374,315	398,843	443,481
純資産	100,632	102,602	104,845	108,681
取扱高	1,511,257	1,451,141	1,570,025	1,601,618
購買部門	375,185	344,958	394,150	457,013
販売部門	1,136,072	1,106,183	1,175,875	1,144,604

### 3. 内部統制システム整備・運用状況報告

「内部統制システムに関する基本方針」を定め、この基本方針に基づき、理事会および各種会議体の開催・運営を行うとともに、関係法令や関係諸規程などを遵守した職務の執行、子会社に対する必要な指導・助言など、適切な内部統制システムの整備・運用に努めてまいりました。

引き続き、理事および職員が業務の適正を確保するため、法令遵守、効率的な業務遂行、リスク管理などに係る仕組みや諸規程の整備・運用を進めてまいります。

### 4. 内部統制システムに関する基本方針

令和4年3月25日改定

ホクレン農業協同組合連合会（以下「会」という。）は経営理念※に適った系統活動を通じ、組織価値を高めるとともに、すべてのステークホルダーからの信頼を得て北海道農業の発展に寄与し、また豊かな社会の実現に貢献するために、以下のとおり、会の業務の適正を確保するための体制（以下「内部統制システム」という。）の整備に関する基本方針を定めます。

#### ※経営理念

わたしたちは生産者のための協同組合として、会員JAと連携した事業を通じ、共生の大地 北海道から「農」と「食」の未来を担います。

#### 1. 理事および職員の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

(1) 会は、理事および職員が本会事業の根拠法となる農協法をはじめ事業関連法規および定款を遵守し、常にその社会的使命を踏まえた事業活動から逸脱することのないよう、行動指針としての「役職員行動規範」をはじめとした規程、規則等を定め、これら規程類に従い業務を遂行し、その状況を検証します。

(2) 会は、代表理事会長を委員長とする「ガバナンス委員会」ならびに代表理事専務を部会長とする「内部統制システム部会」「コンプライアンス・リスク管理部会」「危機管理部会」「食品品質・表示管理部会」（以下「関連4部会」という。）を設置し、コンプライアンス態勢の維持・向上を図り、啓発教育を実施し、その定着に関する取組事項の協議と推進を行うとともに、適切な内部統制体制の整備に努めます。

- (3) 会は、公益通報者保護法に対応したグループ内の相談・報告体制を整備するとともに、外部相談・通報窓口としてのホクレングループフレッシュライン（第三者機関受付）を設置し、通報体制を整備します。
- (4) 会は、代表理事会長のもとに内部監査室を設置し、会長が定める内部監査方針に基づき、内部統制の整備・運用状況を会の内部統制目的の観点から監査します。また、内部監査の指摘事項については、全会的に水平展開を行い、業務の適正性確保と類似事項に対する予防措置を講じます。
- (5) 会は、業務の点検・改善を毎年実施することにより、業務の適切性の確認と併せ、不適切な業務手続きの改善を行うことで、法令・定款等の遵守態勢の向上に努めます。

## 2. 理事の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

- (1) 理事は、総会議事録・理事会議事録その他職務執行に関わる重要情報を「文書規程」、「文書管理要領」、「情報システムセキュリティ管理要領」の定める方法により、適切に整理・保存のうえ、管理します。
- (2) 理事の職務の執行に係る文書については、関連資料とともに保存・管理するものとし、必要に応じた期間は閲覧可能な状態を維持します。

## 3. リスク管理に関する規程その他の体制

- (1) 会はリスク管理に関する基本的事項を「危機管理マニュアル」（事業継続計画〈BCP〉を含む）に定め、代表理事専務を部会長とする関連4部会を設置し、重要リスクの回避・低減に向けた危機管理に関する取り組みに努めます。
- (2) 理事および職員は職制規程に基づき、その職務の遂行に伴うリスク管理を行い、その結果について責任を負います。
- (3) 重大な危機が発生した場合は「危機管理マニュアル」に基づき、危機対策本部等を設置し、迅速かつ適正な対応を行い、損害・損失を最小限に止めるとともにその後の再発防止策を講じます。

## 4. 理事の職務の執行が効率的に行われていることを確保するための体制

- (1) 理事会は年度計画に基づき開催するほか、必要に応じて随時開催します。経営上重要な事項については、事前に常勤役員参事会で審議し、その審議を経て理事会で決議を行います。
- (2) 会は総会において、中期計画及び毎年度の事業計画を設定するとともに、理事会において業務を執行するための方針に関する事項を決定します。

- (3) 会は定款に総会・理事会の決議事項と報告事項を定めるとともに職制規程を制定し、職務遂行単位、各職位の責任体制を明確にし、業務の組織的・能率的運営を図ります。

#### 5. 財務報告の適正性および信頼性を確保するための体制

- (1) 会は、会計基準その他法令を遵守するとともに、経理規程等のルールを整備し、適正な会計処理を行います。
- (2) 会は、適時・適正に財務報告を作成できるよう、財務報告部署に適切な人員を配置し、会計・税務等に関する専門性を維持・向上させるため、人材育成に努めます。

#### 6. 子会社における業務の適正を確保するための体制

- (1) 会は、子会社の内部統制システムの整備を図るため、「内部統制システムに関する基本方針」を定め、すべての子会社はこれに基づき会社毎に内部統制システムを整備し、これを取締役会において決議します。
- (2) 会は、子会社を管理する総括管理部門ならびに各社を管理する現業管理部門を設け、会と子会社間での協議、情報共有、指示・要請の伝達が効果的に行われる体制の整備に努めます。
- (3) 子会社のリスク管理については「子会社等管理規程」ならびに「子会社等管理規則」に基づき、子会社各社は危機管理・コンプライアンスに関する事項が発生した場合には、直ちに会に報告し、会は必要に応じて指導・助言を行います。
- (4) 会は、子会社の指導・育成を目的とした「経営者会議」ならびに子会社との情報共有と会社経営の運営等に関する事項への指導・助言を目的とした「ホクレン・子会社連絡会議」を設置し、子会社の内部統制レベルの向上に努めます。
- (5) 内部監査室は子会社との覚書に基づき、法令・定款等の遵守状況および遵守態勢の有効性、業務の有効性・効率性について監査を行います。

#### 7. 監事が、その職務を補助すべき職員を置くことを求めた場合における当該職員に関する事項

監事による監査の実効性を高め、監査職務が円滑に遂行されるために会は監事の職務遂行を補助する専門部署（監事監査室）を設置します。

## 8. 理事および職員が監事に報告を行うための体制および監事への報告に関する体制

- (1) 監事は職務執行に関する重要な書類を閲覧し、必要に応じて理事ならびに職員に説明を求めます。
- (2) 理事および職員は法令等の違反行為、会に著しい損害を及ぼすおそれのある事実があることを発見した場合には、直ちに監事に報告します。
- (3) 会は、監事への報告をした者が、当該報告を行ったことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保します。

## 9. その他監事の監査が、実効的に行われていることを確保するための体制

- (1) 常勤監事は理事会のほか、重要な意思決定の過程および業務の執行状況を把握するため、重要な会議等に参加します。
- (2) 監事は内部監査室と緊密な連携を保ち、情報交換を行い、効率的で有効な監査を実施するよう努めます。
- (3) 監事は代表理事等との定期的会合をもち、監査上の重要課題等について意見を交換し、代表理事等との相互認識を深めるよう努めます。

## 10. 反社会的勢力による被害の防止

会は社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対して、確固たる信念をもって、以下の事項を定め、排除の姿勢を堅持し、これを遵守します。

### (1) 組織としての対応

反社会的勢力による不当要求に対し、職員の安全を確保しつつ組織として対応し迅速な問題解決に努めます。

### (2) 外部専門機関との連携

反社会的勢力による不当要求に備えて、平素から警察、暴力追放運動推進センター、弁護士などの外部専門機関と緊密な連携関係を構築します。

### (3) 取引を含めた関係を遮断

反社会的勢力との取引を含めた関係を遮断し、不当要求に対しては断固として拒絶します。

### (4) 有事における民事と刑事の法的対応

反社会的勢力による不当要求に対して、民事と刑事の両面から法的対抗措置を講じる等、断固たる態度で対応します。

### (5) 裏取引や資金提供の禁止

反社会的勢力に対して、資金提供、不適切・異例な取引および便宜供与は行いません。

## 11. 内部統制システムの整備・運用状況の報告

会は内部統制システムを適正に運用するため、ガバナンス委員会において、関連4部会からの報告内容を検証することで、内部統制システムの整備・運用状況を評価します。

また、ガバナンス委員会における評価結果については理事会に報告し、基本方針の妥当性の検証を行います。

この内部統制システムについては、不断の見直しによって継続的に改善を図り、より適正かつ効率的な体制の整備に努めることとします。

以 上

## 5. 事業の経過

### (1) 理事会事項

年月日	処 理 事 項
4. 4. 27	<p><b>第1回理事会</b></p> <p>I 決議事項</p> <p>1号 令和4年度役員報酬について</p> <p>2号 令和3年度業務報告について</p> <p>(1) 決算(案)について</p> <p>(2) 事業報告(案)について</p> <p>3号 第14次中期計画(案)および令和4年度事業計画(案)について</p> <p>4号 本会と理事との契約締結について</p> <p>(1) 石狩市農業協同組合との契約</p> <p>(2) 帯広市川西農業協同組合との契約</p> <p>II 報告事項</p> <p>1号 会計監査人の再任について</p> <p>2号 子会社等の決算見込みについて</p> <p>3号 生乳受託販売委員会等の開催結果について</p> <p>III その他</p>
5. 30	<p><b>第2回理事会</b></p> <p>I 決議事項</p> <p>1号 令和3年度会計監査人監査の結果について</p> <p>2号 決算関係書類について</p> <p>3号 令和3年度連結業務報告書について</p> <p>4号 役員の補欠選任について</p> <p>5号 役員の退職慰労金について</p> <p>6号 第133回通常総会の開催について</p> <p>7号 本会と理事との契約締結について</p> <p>(1) しれとこ斜里農業協同組合との契約</p> <p>(2) しれとこ斜里農業協同組合との契約</p> <p>(3) 女満別町農業協同組合との契約</p> <p>II 報告事項</p> <p>1号 監事監査結果の実施結果について</p> <p>2号 地区別農協組合長会議発言・回答要旨について</p> <p>3号 本会と理事との契約後の取引に係る報告について</p> <p>4号 生乳受託販売委員会等の開催結果について</p> <p>5号 令和4肥料年度肥料価格について</p>



年 月 日	処 理 事 項
7. 1	<p>Ⅲ その他</p> <p>1号 国土交通省 今後の鉄道物流のあり方に関する検討会に係る報告について</p> <p><b>第3回理事会</b></p> <p>I 決議事項</p> <p>1号 役員の退職慰労金について</p> <p>2号 第134回臨時総会の開催について</p> <p>3号 令和4年度理事報酬について</p> <p>4号 理事の代理順位について</p> <p>5号 固定資産の取得について</p> <p>(1) 中斜里製糖工場 構内輸送道路整備</p> <p>(2) 女満別種子工場 てん菜ペレット種子計数包装機</p> <p>(3) 十勝地区家畜市場新築移転計画</p> <p>6号 本会と理事との契約締結について</p> <p>(1) 女満別町農業協同組合との契約</p> <p>(2) しれとこ斜里農業協同組合との契約</p> <p>II 報告事項</p> <p>1号 令和3年度内部監査結果レポートならびに内部評価の報告について</p> <p>2号 外部出資の状況について</p> <p>3号 第26期生乳受託販売委員会理事委員の選任について</p>
7. 26	<p>Ⅲ その他</p> <p><b>第4回理事会</b></p> <p>I 決議事項</p> <p>1号 役員等賠償責任保険への加入について</p> <p>2号 函館市宮前町33番13号の函館支所事務所の移転開設について</p> <p>3号 固定資産の取得について</p> <p>(1) パールライス工場 無洗米搬送ライン</p> <p>(2) パールライス砂川工場 FAシステム</p> <p>(3) 中斜里製糖工場 網走受入場移動式1号パイラー</p> <p>(4) JAOC釧路徹別石油広域流通施設</p> <p>4号 本会と理事との契約締結について</p> <p>オホーツク農業協同組合連合会との契約</p> <p>II 報告事項</p> <p>1号 系統利用向上に向けた取り組みについて</p> <p>2号 共計の精算について</p> <p>(1) 令和2年産加工用うるち米・輸出用米（見込）</p> <p>(2) 令和3年産飼料用米（最終）</p> <p>(3) 令和3年産原料てん菜</p> <p>3号 生乳受託販売委員会等の開催結果について</p>

年 月 日	処 理 事 項
9. 30	<p>Ⅲ その他</p> <p><b>第5回理事会</b></p> <p>I 決議事項</p> <p>1号 本会と理事との契約締結について</p> <p>(1) しれとこ斜里農業協同組合との契約</p> <p>(2) 東川町農業協同組合との契約</p> <p>II 報告事項</p> <p>1号 令和4年度第1四半期内部監査の実施結果について</p> <p>2号 ホクレンにおけるDXの取り組みについて</p> <p>3号 共計の精算について</p> <p>令和2年産もち米（見込）</p> <p>4号 生乳受託販売委員会等の開催結果について</p> <p>5号 子会社において発生した不祥事案について</p> <p>Ⅲ その他</p>
10. 28	<p><b>第6回理事会</b></p> <p>I 決議事項</p> <p>1号 帯広市西三条南七丁目14番地の帯広支所事務所の移転開設について</p> <p>2号 固定資産の取得について</p> <p>農産広域センター調製品異物除去機他</p> <p>3号 本会と理事との契約締結について</p> <p>(1) びらとり農業協同組合との契約</p> <p>(2) きょうわ農業協同組合との契約</p> <p>(3) 鶴川農業協同組合との契約</p> <p>(4) 石狩市農業協同組合との契約</p> <p>(5) 東川町農業協同組合との契約</p> <p>(6) 一般社団法人ジェネティクス北海道との契約</p> <p>II 報告事項</p> <p>1号 令和4年度9月末事業実績について</p> <p>2号 生乳受託販売委員会等の開催結果について</p> <p>Ⅲ その他</p>
12. 16	<p><b>第7回理事会</b></p> <p>I 決議事項</p> <p>1号 職制規程の改定について</p> <p>2号 固定資産の売却・修繕について</p> <p>(1) 東京事務所12号住宅敷地</p> <p>(2) 苫小牧石油貯蔵施設屋外貯蔵タンク</p> <p>3号 本会と理事との契約締結について</p> <p>(1) 今金町農業協同組合との契約</p>

年 月 日	処 理 事 項
5. 1. 20	<p>(2) 新得町農業協同組合との契約</p> <p>II 報告事項</p> <p>1号 令和4年度監査実施報告について</p> <p>2号 令和4年度第2四半期内部監査の実施結果について</p> <p>3号 子会社等の中間決算について</p> <p>4号 共計の精算について</p> <p>(1) 令和2年産酒造好適米</p> <p>(2) 令和3年産加工用もち米</p> <p>(3) 令和3年産民間流通麦</p> <p>(4) 令和3年産大豆</p> <p>(5) 令和3年産でん粉</p> <p>5号 生乳受託販売委員会等の開催結果について</p> <p>6号 令和5農薬年度農薬価格について</p> <p>III その他</p> <p><b>第8回理事会</b></p> <p>I 決議事項</p> <p>1号 固定資産取得に係る承認内容の変更について</p> <p>2号 本会と理事との契約締結について</p> <p>北海道澱粉工業協会との契約</p> <p>3号 加工原料乳生産者経営安定対策事業について</p> <p>4号 参事の任免について</p> <p>II 報告事項</p> <p>1号 全国新聞情報農業協同組合連合会の組織変更について</p> <p>2号 生乳受託販売委員会の開催結果について</p> <p>III その他</p>
3. 1	<p><b>第9回理事会</b></p> <p>I 決議事項</p> <p>1号 固定資産の取得について</p> <p>中斜里製糖工場 タービン制御装置</p> <p>2号 本会と理事との契約締結について</p> <p>しれとこ斜里農業協同組合との契約</p> <p>II 報告事項</p> <p>1号 令和4年度監査実施報告について</p> <p>2号 地区別農協組合長会議発言・回答要旨について</p> <p>3号 JA出資型法人の状況について</p> <p>4号 本会と理事との契約内容の変更について</p> <p>石狩市農業協同組合との契約に係る承認内容の変更</p>

年 月 日	処 理 事 項
3. 29	<p>Ⅲ その他</p> <p>1号 系統結集に向けた飼料推進体制の現状と今後について</p> <p><b>第10回理事会</b></p> <p>I 協議事項</p> <p>1号 令和4年度決算見通しについて</p> <p>2号 令和5年度事業計画（案）の大綱について</p> <p>II 決議事項</p> <p>1号 令和4年度内部統制システム整備運用状況報告ならびに 令和5年度内部統制に関する基本方針について</p> <p>2号 労働協約書の締結について</p> <p>3号 令和5年度資金の運用調達について</p> <p>4号 本会と理事との契約締結について</p> <p>(1) しれとこ斜里農業協同組合との契約</p> <p>(2) 女満別町農業協同組合との契約</p> <p>(3) 女満別町農業協同組合との契約</p> <p>5号 加工原料乳生産者経営安定対策事業について</p> <p>III 報告事項</p> <p>1号 令和4年度第3四半期内部監査の実施結果について</p> <p>2号 令和4年度会員の脱退と加入の状況について</p> <p>3号 生乳受託販売委員会等の開催結果について</p> <p>IV その他</p>

(2) 監事会事項

年月日	処 理 事 項
4. 4. 27	<p><b>第1回監事会</b></p> <p>I 決定事項</p> <p>1. 令和4年度監査計画（案）について</p> <p>II 協議事項</p> <p>1. 令和3年度会計監査人棚卸の立会結果について</p> <p>2. 令和3年度監査実施報告書（1～4月）について</p> <p>III 報告事項</p> <p>1. 令和4年度危機管理対応状況について</p> <p>2. 令和4年度内部通報の受付状況について</p> <p>3. 令和4年度第1回理事会の議案について</p> <p>4. 令和4年度内部監査計画について</p>
5. 23	<p><b>第2回監事会</b></p> <p>I 協議事項</p> <p>1. 令和3年度監事監査の実施結果（案）について</p>
5. 30	<p><b>第3回監事会</b></p> <p>I 報告事項</p> <p>1. 令和4年度危機管理対応状況について</p> <p>2. 令和4年度内部通報の受付状況について</p> <p>3. 令和4年度第2回理事会の議案について</p>
6. 21	<p><b>第4回監事会</b></p> <p>I 協議事項</p> <p>1. 監事の選任について</p>
7. 1	<p><b>第5回監事会</b></p> <p>I 決定事項</p> <p>1. 監事会議長の代理順位について</p> <p>2. 令和4年度監事報酬について</p> <p>3. 令和4年度監査計画の変更について</p> <p>II 協議事項</p> <p>1. 令和3年度監事意見書について</p> <p>III 報告事項</p> <p>1. 子会社決算監査の実施状況について</p> <p>2. 令和4年度危機管理対応状況について</p> <p>3. 令和4年度内部通報の受付状況について</p> <p>4. 令和4年度食品品質監査報告について</p> <p>5. 令和4年度第3回理事会の議案について</p>

年 月 日	処 理 事 項
7. 26	<p>6. 令和3年度内部監査実施結果について</p> <p><b>第6回監事会</b></p> <p>I 協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本所部直轄施設等の監事監査（7月実施分）の実施結果について</li> <li>2. 本所課直轄施設の現地確認の実施結果について</li> </ol> <p>II 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和4年度危機管理対応状況について</li> <li>2. 令和4年度内部通報の受付状況について</li> <li>3. 令和4年度食品品質監査報告について</li> <li>4. 令和4年度第4回理事会の議案について</li> </ol>
9. 30	<p><b>第7回監事会</b></p> <p>I 協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 常勤理事との意見交換の実施結果について</li> <li>2. 本所部直轄施設の監事監査の実施結果について</li> </ol> <p>II 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和4年度危機管理対応状況について</li> <li>2. 令和4年度内部通報の受付状況について</li> <li>3. 令和4年度食品品質監査報告について</li> <li>4. 令和4年度第5回理事会の議案について</li> </ol>
10. 28	<p><b>第8回監事会</b></p> <p>I 協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 支店の監事監査の実施結果について</li> <li>2. 令和4年度監査実施報告書（7月～9月）について</li> <li>3. みのり監査法人とのコミュニケーションの事前質問への回答について</li> </ol> <p>II 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和4年度危機管理対応状況について</li> <li>2. 令和4年度内部通報の受付状況について</li> <li>3. 令和4年度食品品質監査報告について</li> <li>4. 令和4年度第6回理事会の議案について</li> <li>5. 令和4年度内部監査結果について</li> </ol>
11. 24	<p><b>第9回監事会</b></p> <p>I 協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 常勤理事ヒアリングについて</li> </ol>
12. 16	<p><b>第10回監事会</b></p> <p>I 協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 常勤理事ヒアリングの実施結果について</li> </ol>

年 月 日	処 理 事 項
5. 1. 20	<ul style="list-style-type: none"> <li>2. 支所（一期）の監事監査の実施結果について</li> <li>3. 施設の監事監査（12月実施分）の実施結果について</li> <li>4. 子会社調査の実施結果について</li> <li>II 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 業務委託に係る全会調査結果について</li> <li>2. 令和4年度危機管理対応状況について</li> <li>3. 令和4年度内部通報の受付状況について</li> <li>4. 令和4年度食品品質監査報告について</li> <li>5. 令和4年度第7回理事会の議案について</li> </ul> </li> </ul> <p><b>第11回監事会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>I 協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 令和4年度監査実施報告書（10月～12月）について</li> </ul> </li> <li>II 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 子会社中間監査の実施状況について</li> <li>2. 令和4年度危機管理対応状況について</li> <li>3. 令和4年度内部通報の受付状況について</li> <li>4. 令和4年度第8回理事会の議案について</li> </ul> </li> </ul>
3. 1	<p><b>第12回監事会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>I 協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 常勤理事ヒアリングの実施結果について</li> <li>2. 令和5年度会計監査人監査報酬の見積もりについて</li> </ul> </li> <li>II 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 令和4年度危機管理対応状況について</li> <li>2. 令和4年度内部通報の受付状況について</li> <li>3. 令和4年度第9回理事会の議案について</li> </ul> </li> </ul>
3. 29	<p><b>第13回監事会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>I 協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 支所（二期）の監事監査の実施結果について</li> <li>2. 会計監査人の再任について</li> </ul> </li> <li>II 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 令和4年度危機管理対応状況について</li> <li>2. 令和4年度内部通報の受付状況について</li> <li>3. 令和4年度第10回理事会の議案について</li> <li>4. 令和4年度決算見通しについて</li> </ul> </li> </ul>

### (3) 主要事項

年月日	処 理 事 項
4. 4. 1	会計監査人監査（期末）
4	中斜里製糖工場 第64期終了祭
11～15	会計監査人監査（期末）
12	北海道産麦の需給に関する意見交換会
13	第1回北海道もち米生産・販売対策専門委員会
13	第1回北海道農協酪農・畜産対策本部委員会・第1回生乳受託販売委員会合同会議
18～22	会計監査人監査（期末）
19	監事監査（決算）
21	監事監査（決算）
25	第1回経営企画会議
25	第1回コンプライアンス・リスク管理部会
25	第1回食品品質・表示管理部会
25	常勤役員参事会
25	第1回北海道もち米団地農協連絡協議会
25～28	会計監査人監査（期末）
26	北海道種馬鈴しよ協議会定期総会
26	北海道豆類種子対策連絡協議会定期総会
26	第1回Aコープチェーン・北海道経営者委員会
28	第2回北海道農協酪農・畜産対策本部委員会・第2回生乳受託販売委員会合同会議
5. 2	会計監査人監査（期末）
6	会計監査人監査（期末）
9～13	会計監査人監査（期末）
13	会計監査人監査結果概要報告
16～18	地区別農協組合長会議
24	第1回全道種馬鈴しよ取扱対策会議
26	第2回経営企画会議
26	第1回ガバナンス委員会
26	第1回内部統制システム部会
26	第2回コンプライアンス・リスク管理部会
26	第2回食品品質・表示管理部会
26	常勤役員参事会
6. 2	種馬鈴しよ産地代表者会議
6	第1回Aコープチェーン・北海道運営委員会
16	第1回馬鈴しよ取扱対策会議
16	第1回玉ねぎ取扱対策会議



年月日	処 理 事 項
17	第1回うるち米全道共計運営会議
17	第1回野菜果実取扱対策会議
17	北海道青果物拡販宣伝協議会
21	第133回通常総会
28	第1回生乳受託販売委員会特別委員会
28	第3回生乳受託販売委員会
28	第3回北海道農協酪農・畜産対策本部委員会・第4回生乳受託販売委員会合同会議
29	第3回経営企画会議
29	第3回コンプライアンス・リスク管理部会
29	第3回食品品質・表示管理部会
30	常勤役員参事会
7. 5	ホクレン青果物取扱代表者会議
21	第2回Aコープチェーン・北海道運営委員会
22	第4回経営企画会議
22	第4回コンプライアンス・リスク管理部会
22	第4回食品品質・表示管理部会
25	常勤役員参事会
25~29	会計監査人監査（期中）
26	第134回臨時総会
29	第2回玉ねぎ取扱対策会議
8. 4	第2回生乳受託販売委員会特別委員会
4	第5回生乳受託販売委員会
8	「ふっくりんこ」産地サミット推進協議会
9	北海道民間流通麦地方連絡協議会
9	第2回馬鈴しょ取扱対策会議
17	第1回北海道米の新たなブランド形成協議会
18	馬鈴しょ・玉ねぎ取扱対策会議 道外推進WEB会議
22	第2回北海道もち米生産・販売対策専門委員会
22~26	会計監査人監査（期中）
29	第5回経営企画会議
29	第5回コンプライアンス・リスク管理部会
29	第5回食品品質・表示管理部会
29	2022ホクレン大収穫祭
30	第2回うるち米全道共計運営会議
30	令和4年度北海道産麦コンソーシアム総会
31	第3回玉ねぎ取扱対策会議
9. 1	第2回北海道もち米団地農協連絡協議会

年月日	処 理 事 項
1	北海道もち米懇談会
1	第2回全道種馬鈴しょ取扱対策会議
7	第1回水稻種子生産部会
12~16	会計監査人監査（期中）
14	第3回馬鈴しょ取扱対策会議
27	第4回玉ねぎ取扱対策会議
27	第3回生乳受託販売委員会特別委員会
27	第6回生乳受託販売委員会
27	第4回北海道農協酪農・畜産対策本部委員会・第7回生乳受託販売委員会合同会議
28	第6回経営企画会議
28	第6回コンプライアンス・リスク管理部会
28	第6回食品品質・表示管理部会
29	常勤役員参事会
10. 3~7	会計監査人監査（期中）
6	中斜里製糖工場 第65期操業祭
12	北海道産種馬鈴しょ取扱改善委員会
13	第5回北海道農協酪農・畜産対策本部委員会・第8回生乳受託販売委員会合同会議
14	第4回馬鈴しょ取扱対策会議
14	清水製糖工場 第61期操業祭
17~21	会計監査人監査（期中）
19	第3回北海道もち米生産・販売対策専門委員会
21	第3回全道種馬鈴しょ取扱対策会議
24	第3回北海道もち米団地農協連絡協議会
24~28	会計監査人監査（期中）
25	第3回Aコープチェーン・北海道運営委員会
26	第7回経営企画会議
26	第2回ガバナンス委員会
26	第2回内部統制システム部会
26	第7回コンプライアンス・リスク管理部会
26	第7回食品品質・表示管理部会
26	常勤役員参事会
27	第4回生乳受託販売委員会特別委員会
27	第9回生乳受託販売委員会
27	第6回北海道農協酪農・畜産対策本部委員会・第10回生乳受託販売委員会合同会議
28	第3回うるち米全道共計運営会議
28	第5回玉ねぎ取扱対策会議
11. 1	会計監査人監査（期中）

年月日	処 理 事 項
11. 8	玉ねぎ取扱対策会議 三役道外推進
18	第75回農協法公布記念式典
21~25	会計監査人監査（期中）
24	第8回経営企画会議
24	第3回ガバナンス委員会
24	第3回内部統制システム部会
24	第8回コンプライアンス・リスク管理部会
24	第8回食品品質・表示管理部会
25	令和4年度でん粉産地代表者会議
28	第4回うるち米全道共計運営会議
28	第5回生乳受託販売委員会特別委員会
28	第11回生乳受託販売委員会
29	会計監査人監査（期中）
29	第6回玉ねぎ取扱対策会議
12. 5	第4回北海道もち米生産・販売対策専門委員会
5~9	会計監査人監査（期中）
7	第1回商品開発会議
8	第1回農畜産物輸出拡大会議
12~16	会計監査人監査（期中）
14	第9回経営企画会議
14	第9回コンプライアンス・リスク管理部会
14	第9回食品品質・表示管理部会
14	常勤役員参事会
15	会計監査人期中監査経過概要報告
15	令和4年度第1回ホクレン農産全道共計運営委員会
15	第4回全道種馬鈴しょ取扱対策会議
16	第1回販売支店会議
16	馬鈴しょ取扱対策会議 三役会議
22	第6回生乳受託販売委員会特別委員会
22	第13回生乳受託販売委員会
5. 1. 16~20	会計監査人監査（期中）
18	第10回経営企画会議
18	第4回ガバナンス委員会
18	第4回内部統制システム部会
18	第10回コンプライアンス・リスク管理部会
18	第10回食品品質・表示管理部会
18	常勤役員参事会

年月日	処 理 事 項
19	第5回馬鈴しょ取扱対策会議
19	第7回玉ねぎ取扱対策会議
20	第2回野菜果実取扱対策会議
26	北海道産麦の需給に関する意見交換会
30	会計監査人監査（期中）
30	第2回北海道米の新たなブランド形成協議会
2. 1～3	会計監査人監査（期中）
6～7	会計監査人監査（期中）
9～10	会計監査人監査（期中）
14	第1回北海道酒米指定産地協議会
14	第1回馬鈴しょでん粉の安定供給体制確立に向けた検討プロジェクト
14	清水製糖工場 第61期終了祭
14～17	地区別農協組合長会議
22	第14回生乳受託販売委員会
22	第7回北海道農協酪農・畜産対策本部委員会・第15回生乳受託販売委員会合同会議
27	第11回経営企画会議
27	第11回コンプライアンス・リスク管理部会
27	第11回食品品質・表示管理部会
27	常勤役員参事会
3. 6	第2回水稻種子生産部会
17	第3回北海道米の新たなブランド形成協議会
22	第4回Aコープチェーン・北海道運営委員会
27	第12回経営企画会議
27	第5回ガバナンス委員会
27	第5回内部統制システム部会
27	第12回コンプライアンス・リスク管理部会
27	第12回食品品質・表示管理部会
27	常勤役員参事会
27～31	会計監査人監査（期中）

## 6. その他連合会の事業活動の概況に関する重要な事項

該当する重要な事項はありません。

## Ⅱ 連合会の運営組織の状況に関する事項

### 1. 総会の開催状況

(1) 通常総会（第133回）

令和4年6月21日開催

総会日現在正会員数		121 会員	左の議決権数	121 票
出席正会員数	実際に出席した正会員数	114 会員		114 票
	代 理 人	0 "		0 "
	書 面	7 "		7 "
	計	121 "		121 "
出席准会員数		1 会員		
<p><b>【重要な議事及び決議事項】</b></p> <p>決算報告            令和3年度（第68事業年度）貸借対照表、損益計算書および注記表ならびに会計監査人の監査報告および監事の監査報告について</p> <p>決議事項            議案第1号 令和3年度（第68事業年度）事業報告および剰余金処分案について            議案第2号 第14次中期計画および令和4年度（第69事業年度）事業計画について            議案第3号 定款の一部変更について            議案第4号 役員の補欠選任について            議案第5号 役員の退職慰労金について            議案第6号 役員の報酬について            以上の議案は、いずれも原案どおり承認可決された。</p>				

(2) 臨時総会（第134回）

令和4年7月26日開催

総会日現在正会員数		121 会員	左の議決権数	121 票
出席正会員数	実際に出席した正会員数	28 会員		28 票
	代 理 人	0 "		0 "
	書 面	92 "		92 "
	計	120 "		120 "
出席准会員数		0 会員		
<p><b>【重要な議事及び決議事項】</b></p> <p>決議事項            議案第1号 役員の退職慰労金について            以上の議案は、いずれも原案どおり承認可決された。</p>				

## 2. 会員の状況

### (1) 会員数

(単位：会員数)

資格区分	前期末	当期加入	当期脱退					当期末
			持分全部の譲渡	解散	除名	その他	計	
正会員	121	0	0	2 (2)	0	0	2	119
准会員	農業協同組合法 第12条第2項第 2号法人	—	—	—	—	—	—	—
	農業協同組合法 第12条第2項第 3号法人	1	0	0	0	0	0	1
	計	1	0	0	0	0	0	1
合計	122	0	0	2 (2)	0	0	2	120

(注) ( ) 内は、会員間の合併による脱退で内数である

[脱退会員名] 北檜山町農業協同組合 稚内農業協同組合

### (2) 出資口数

(単位：口)

資格区分	前期末	当期増加	当期減少	当期末
正会員	1,003,311	0	0	1,003,311
准会員	農業協同組合法 第12条第2項第 2号法人	—	—	—
	農業協同組合法 第12条第2項第 3号法人	20	0	0
	計	20	0	0
合計	1,003,331	0	0	1,003,331

摘要：

1 出資1口金額	20,000円
2 当期末払込済出資総額	20,066,620,000円
3 1正会員当たり出資金額	168,623,697円
4 1会員の持口最高限度	200,000口

## 3. 役員の状況

### (1) 役員数

(単位：人)

区分	前期末	当期就任	当期退任	当期末	定款に定める役員の定数
理事 (うち常勤)	24 (7)	3 (0)	3 (0)	24 (7)	24
監事 (うち常勤)	7 (2)	1 (0)	1 (0)	7 (2)	7
合計	31	4	4	31	31

(2) 当期末現在の役員

区 分			氏 名	就 任 年 月 日	任 期 満 了 年 月 日	摘 要
役 職 名	常勤・非常勤の別	代表権の有無				
代表理事会長	常 勤	有	篠 原 末 治	令和2年6月23日	令和5年に開催される通常総会の終結の時	全般（内部監査室含む）
代表理事副会長	常 勤	有	畠 山 良 一	令和2年6月23日		米穀事業本部
代表理事副会長	常 勤	有	村 木 秀 雄	令和2年6月23日		農産事業本部・てん菜事業本部
代表理事副会長	常 勤	有	西 川 寛 稔	令和2年6月23日		酪農畜産事業本部
代表理事専務	常 勤	有	箱 石 文 祥	令和2年6月23日		学識経験者・管理本部
代表理事常務	常 勤	有	矢 野 佳 久	令和2年6月23日		学識経験者・資材事業本部・農業総合研究所
代表理事常務	常 勤	有	今 成 貴 人	令和2年6月23日		学識経験者・生活事業本部
理 事	非常勤	無	小田島 親 守	令和2年6月23日		今金町農協 代表理事組合長
理 事	非常勤	無	石 田 吉 光	令和2年6月23日		きょうわ農協 代表理事組合長
理 事	非常勤	無	長 門 宏 市	令和2年6月23日		鷗 川 農 協 代表理事組合長
理 事	非常勤	無	仲 山 浩	令和2年6月23日		びらとり農協 代表理事組合長
理 事	非常勤	無	中 村 武 史	令和3年6月22日		石狩市農協 代表理事組合長
理 事	非常勤	無	鎌 田 和 久	令和4年6月21日		ピ ン ネ 農 協 代表理事組合長
理 事	非常勤	無	柏 木 孝 文	令和2年6月23日		きたそらち農協 代表理事組合長
理 事	非常勤	無	長谷川 裕 昭	令和3年3月11日		る も い 農 協 代表理事組合長
理 事	非常勤	無	樽 井 功	令和2年6月23日		東川町農協 代表理事組合長
理 事	非常勤	無	植 崎 博 行	令和2年6月23日		ふらの農協 代表理事組合長
理 事	非常勤	無	向井地 信 之	令和2年6月23日		宗 谷 南 農 協 代表理事組合長
理 事	非常勤	無	有 塚 利 宣	令和2年6月23日		帯広市川西農協 代表理事組合長
理 事	非常勤	無	太 田 眞 弘	令和4年6月21日		新 得 町 農 協 代表理事組合長
理 事	非常勤	無	渡 邊 勝 美	令和2年6月23日	女満別町農協 代表理事組合長	
理 事	非常勤	無	平 田 隆 雄	令和2年6月23日	しれとこ斜里農協 代表理事組合長	
理 事	非常勤	無	川 口 覚	令和2年6月23日	摩 周 湖 農 協 代表理事組合長	
理 事	非常勤	無	北 村 篤	令和4年6月21日	計 根 別 農 協 代表理事組合長	
代 表 監 事	常 勤	無	西 本 護	令和2年6月23日	北ひびき農協 会 長 理 事	
常 任 監 事	常 勤	無	山 口 浩 司	令和2年6月23日	学 識 経 験 者	
監 事	非常勤	無	今 村 隆 徳	令和3年6月22日	道 央 農 協 代表理事組合長	
監 事	非常勤	無	岸 定	令和4年6月21日	美 唄 市 農 協 代表理事組合長	
監 事	非常勤	無	新 津 賀 庸	令和2年6月23日	足 寄 町 農 協 代表理事組合長	
監 事	非常勤	無	永 峰 勝 利	令和2年6月23日	オホーツクはまなす農協 代表理事組合長	
監 事	非常勤	無	十 川 典 子	令和2年6月23日	員 外 監 事	
理 事	非常勤	無	北 輝 男	令和2年6月23日	期 中 退 任	
理 事	非常勤	無	西 岡 悦 夫	令和2年6月23日	期 中 退 任	
理 事	非常勤	無	原 井 松 純	令和2年6月23日	期 中 退 任	
監 事	非常勤	無	篠 田 雅	令和2年6月23日	期 中 退 任	

(注) 学識経験者とは、職員出身で実務に精通し、連合会の事業内容についての十分な識見と能力を有する者。  
 ※当連合会は、理事及び監事の全員を被保険者とする農協法第35条の8第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を  
 保険会社との間で締結しております。当該保険契約は、被保険者が会の役員としての業務につき行った行為（不  
 作為を含む）に起因して、職員または第三者から法律上の損害賠償請求を受けた場合、損害賠償金など財産上の損害  
 を填補するものです。

## 4. 会計監査人の状況

当連合会の会計監査人は、みのり監査法人であり、業務執行社員は公認会計士香川昭広氏および公認会計士片岡平太氏および公認会計士松本貴毅氏であります。

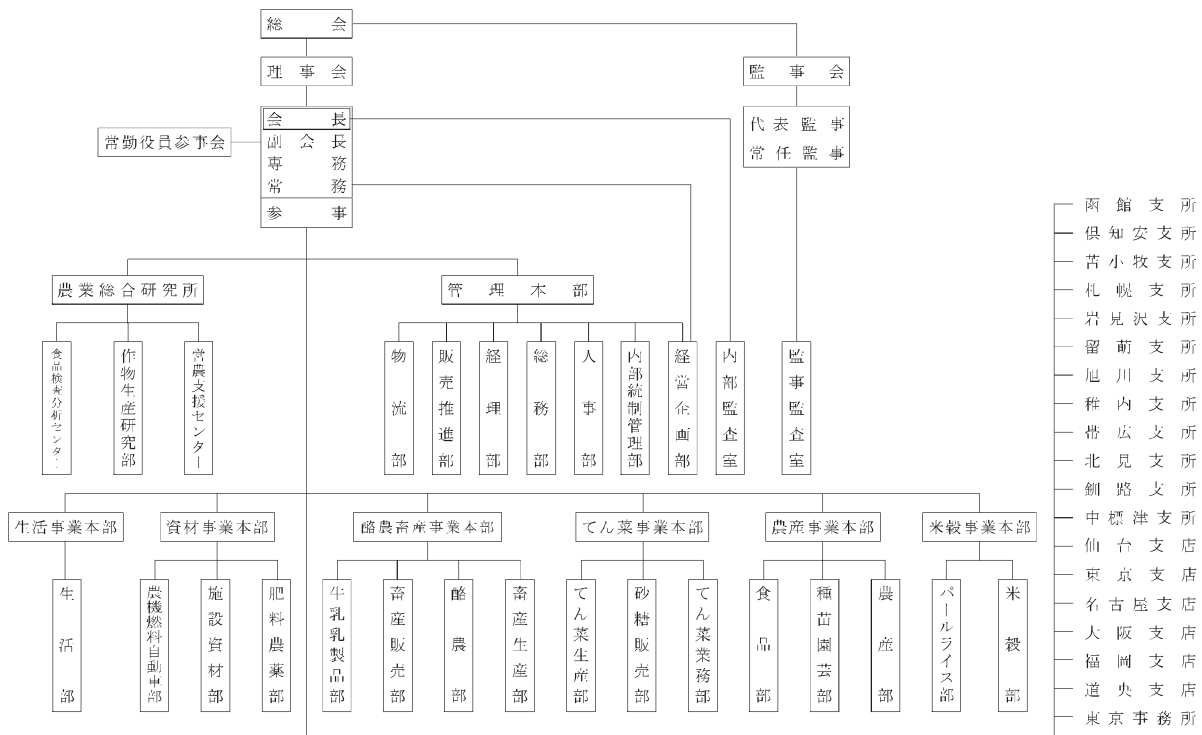
## 5. 職員の状況

(単位：人)

区 分	前 期 末	当 期 増 加	当 期 減 少	当 期 末
参 事	8	3	3	8
職 員	1,879 (81)	91	82	1,888 (70)
嘱 託	110 (8)	16	36	90 (10)
技 能 ・ 作 業 職	—	—	—	—
合 計	1,997 (89)	110	121	1,986 (80)
平 均 年 齢	39歳 8 月			39歳 9 月
平 均 勤 続 年 数	17年 6 月			17年 6 月
平 均 年 間 給 与	6,515千円			6,532千円

( ) 内は出向者数

## 6. 組織の構成





## 7. 施設の設置状況

種 別	名 称	所 在 地	職員数
事務所	① 本所	札幌市中央区北4条西1丁目3番地	730
〃	② 函館支所	函館市昭和3丁目28番21号	43
〃	③ 倶知安支所	虻田郡倶知安町南3条西3丁目1番地	31
〃	④ 苫小牧支所	苫小牧市若草町5丁目5番3号	58
〃	⑤ 札幌支所	札幌市中央区北4条西1丁目1番地	33
〃	⑥ 岩見沢支所	岩見沢市5条西5丁目2番1号	56
〃	⑦ 留萌支所	留萌市末広町2丁目4番12号	26
〃	⑧ 旭川支所	旭川市宮下通4丁目2番5号	90
〃	⑨ 稚内支所	稚内市末広4丁目2番31号	31
〃	⑩ 帯広支所	帯広市西12条南6丁目3番地1	109
〃	⑪ 北見支所	北見市とん田東町617番地	97
〃	⑫ 釧路支所	釧路市黒金町12丁目10番地	36
〃	⑬ 中標津支所	標津郡中標津町東6条南1丁目2番地	35
〃	⑭ 仙台支店	宮城県仙台市宮城野区榴岡4丁目6番1号	10
〃	⑮ 東京支店	東京都千代田区東神田2丁目9番5号	90
〃	⑯ 名古屋支店	愛知県名古屋市中区丸の内2丁目20番25号	32
〃	⑰ 大阪支店	大阪府大阪市北区鶴野町1番9号	41
〃	⑱ 福岡支店	福岡県福岡市博多区博多駅前2丁目9番28号	10
〃	⑲ 道央支店	札幌市中央区北4条西1丁目3番地	68
〃	東京事務所	東京都千代田区丸の内3丁目4番1号	6
研究所	農業総合研究所	札幌市東区北6条東7丁目375番地	97
事業所（本所直轄）	中斜里製糖工場	斜里郡斜里町字川上111番地	77
〃	清水製糖工場	上川郡清水町字清水第1線71番地の1	55
〃	くるるの杜	北広島市大曲377-1	13
〃	パールライス工場	石狩市新港西2丁目792番地	5
〃	パールライス砂川工場	砂川市北光365番地7号	4
〃	農産広域センター	石狩市新港西2丁目792番地	12
〃	滝川種苗生産センター	滝川市北滝の川735番地109	12
〃	札幌野菜センター	札幌市西区二十四軒1条1丁目6番地	6
〃	山梨馬鈴しょサラダ工場	山梨県西八代郡市川三郷町宮原1960-1	4
〃	関東野菜センター	茨城県常総市大輪町903-7	3
〃	女満別種子工場	網走郡大空町女満別西1条1丁目3番1号	11
〃	滝川スワイン・ステーション	滝川市江部乙町4348番1	4
〃	小樽種子工場	小樽市手宮1丁目1番1号	9
〃	訓子府実証農場	常呂郡訓子府町字駒里184番地7	18
〃	食肉加工工場	勇払郡安平町遠浅695番地5	0
〃	札幌農機総合部品センター	北広島市大曲823番地8	3

種 別	名 称	所 在 地	職員数
事業所（本所直轄）	苫小牧石油貯蔵施設	苫小牧市真砂町36番地 3	2
〃	留萌石油出荷ターミナル	留萌市塩見町2436番地	0
〃	釧路石油貯蔵施設	釧路市知人町 2 番18号	1
〃	札幌生活用品総合センター	札幌市西区 二十四軒 1 条 1 丁目 6 番地	14
事業所（農産事業本部）	石狩穀物調製センター	石狩市新港西 2 丁目792番地	0
〃	水稲種子センター	滝川市北滝の川735番地107	0
事業所（酪農畜産事業本部）	釧路クーラーステーション	川上郡標茶町字熊牛原野15線西 6 番地 1	0
〃	札幌鶏卵流通センター	北広島市大曲823番地 9	0
〃	旭川鶏卵流通センター	旭川市流通団地 1 条 2 丁目	0
〃	北見鶏卵流通センター	北見市端野町三区461番 3 - 3	0
〃	北海道家畜市場	勇払郡安平町早来新栄 4 番地	0
〃	北海道中央地域家畜市場	旭川市東鷹栖 5 線10号	0
〃	豊富地域家畜市場	天塩郡豊富町上サロベツ569番地の 1	0
〃	十勝地区家畜市場	河東郡音更町字音更西 2 線 9 - 1	0
〃	北見地区総合家畜市場	常呂郡佐呂間町西富127番地 2	0
〃	釧路地区家畜市場	釧路市大楽毛86番地 1	0
〃	根室地区家畜市場	標津郡中標津町南中10番 2	0
〃	十勝枝肉市場	帯広市西25条北 2 丁目 1 番地 1	0
〃	札幌食肉流通センター	札幌市東区本町 1 条 9 丁目 2 番 8 号	0
事業所（生活事業本部）	旭川生活用品センター	旭川市流通団地 1 条 2 丁目	1
〃	帯広生活用品センター	帯広市西22条北 1 丁目10番地 4	2
〃	北見生活用品センター	北見市東相内39番地 1	1
事業所（物流部）	東京食品流通センター	東京都港区港南 5 丁目 6 番 7 号	0
〃	釧路倉庫	釧路市南浜町32番地	0
合 計		61箇所	1,986

## 8. 子会社等の状況

別冊「子会社等の状況」のとおり。

## 9. その他連合会の運営組織の状況に関する重要な事項

該当する重要な事項はありません。